

# 果樹の生育概況

令和7年8月18日現在  
福島県農業総合センター果樹研究所

## 1 気象概況

8月1～3半旬の平均気温は26.2℃で、平年より0.5℃高かった。また、この期間の降水量は93.0mmで平年比133%、日照時間は89hrで平年比90%であった（表1）。

表1 半旬別気象表（果樹研究所）

月	半旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
		本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
8	1	27.8	25.9	+1.9	33.7	31.0	+2.7	23.7	21.9	+1.8	20.0	18.8	106.4	29.9	33.4	89.5
	2	25.4	25.7	-0.3	30.6	30.8	-0.2	21.3	21.8	-0.5	27.5	30.5	90.2	34.1	33.6	101.5
	3	25.4	25.5	-0.1	30.0	30.5	-0.5	22.1	21.8	+0.3	45.5	20.7	219.8	25.3	31.9	79.3
平均・合計		26.2	25.7	+0.5	31.4	30.8	+0.6	22.4	21.8	+0.6	93.0	70.0	132.9	89.3	98.9	90.3

## 2 土壌の水分状況

8月18日時点の土壌水分（pF値：果樹研究所ナシほ場：草生・無かん水）は、深さ20cmで2.7、深さ40～60cmで2.9となっており、乾燥状態である（図1）。

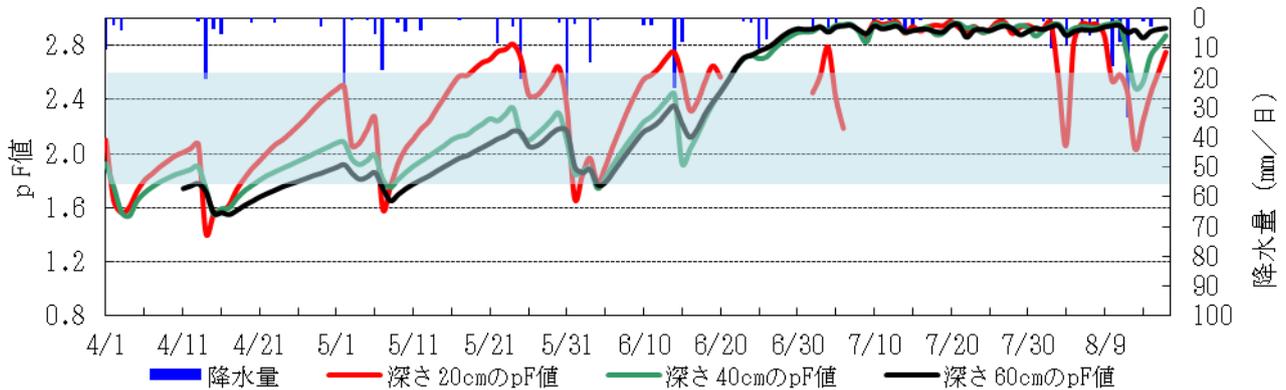


図1 土壌 pF 値の推移（果樹研究所ナシほ場：草生・無かん水）  
図中の網掛け部は、適湿の範囲（pF1.8-2.6）を示す

## 3 生育状況

### (1) モモ

#### ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「ゆうぞら」は縦径が75.9mmで平年比109%、側径が82.4mmで平年比118%と平年より大きい。満開後日数で比較すると、平年より大きい（図2）。

#### イ 新梢生長

満開後120日における「ゆうぞら」の新梢長は28.7cm（平年比176%）で平年よりかなり長く、展葉数は21.7枚（平年比140%）で平年よりかなり多く、葉色は43.9（平年比95%）で平年よりやや低く、新梢停止率は95%（平年比100%）と平年並である（表2）。

#### ウ 収穫状況

「あかつき」の収穫盛りは7月29日で平年より6日早く、昨年より7日遅かった。果実重は341gで平年よりかなり大きく、糖度は14.3° Brixで平年より高かった。

「まどか」の収穫盛りは8月7日で平年より6日早く、昨年より4日遅かった。果実重は323gで平年よりやや小さく、糖度は16.9° Brixで平年よりかなり高かった（表3）。

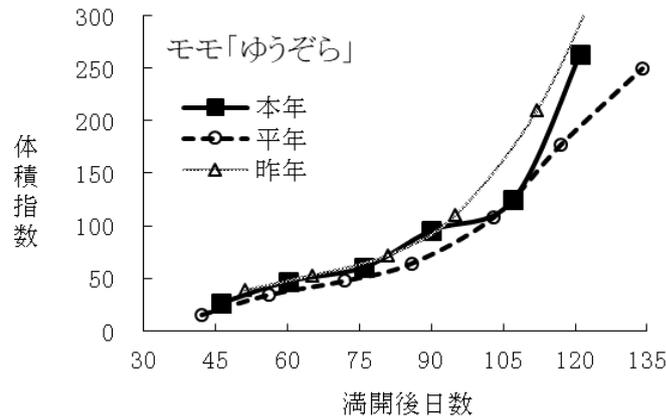


図2 モモの果実肥大

表2 モモの新梢伸長 (満開後120日調査)

品種	新梢長 (cm)			展葉数			葉色 (SPAD)			新梢停止率 (%)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
ゆうぞら	28.7	16.3	176	21.7	15.5	140	43.9	46.3	95	95.0	94.7	100

注) 平年値は1996～2020年までの平均値。

表3 モモの収穫状況

品種	収穫始め			収穫盛り			収穫終わり			果実重 (g)			糖度 (° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
はつひめ	6/30	7/6	6/28	7/4	7/9	7/2	7/7	7/13	7/4	316	264	303	13.0	11.8	12.7
日川白鳳	7/3	7/13	7/1	7/6	7/16	7/3	7/10	7/20	7/4	251	236	211	13.3	11.0	12.8
暁星	7/15	7/21	7/8	7/18	7/25	7/10	7/24	7/29	7/11	198	221	211	14.2	13.0	14.0
ふくあかり	7/18	7/21	7/12	7/24	7/27	7/15	7/28	7/31	7/16	302	266	306	15.8	13.0	12.8
あかつき	7/25	7/31	7/19	7/29	8/4	7/22	8/4	8/9	7/29	341	269	343	14.3	13.0	13.2
まどか	8/4	8/9	8/1	8/7	8/13	8/3	8/11	8/18	8/5	323	350	376	16.9	13.7	14.7

注) 平年は、1991年～2020年(「はつひめ」「ふくあかり」は2009年～2020年)の平均値。

(2) ナシ

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「豊水」は縦径が70.0mmで平年比105%、横径が82.7mmで平年比109%と平年よりやや大きい。満開後日数で比較すると、「豊水」は平年よりやや大きい(図3)。

イ 成熟状況

満開後115日頃における成熟調査の結果は、果実硬度が9.4ポンドと平年より高く、糖度が12.1° Brixと平年よりやや高く、果皮中クロロフィル含量が10.6μg/cm<sup>2</sup>と平年並である(表4)。果皮中クロロフィル含量に対する果実硬度は、平年値を上回っている(図6)。

「幸水」の収穫開始日は8月18日で平年より6日早かった。

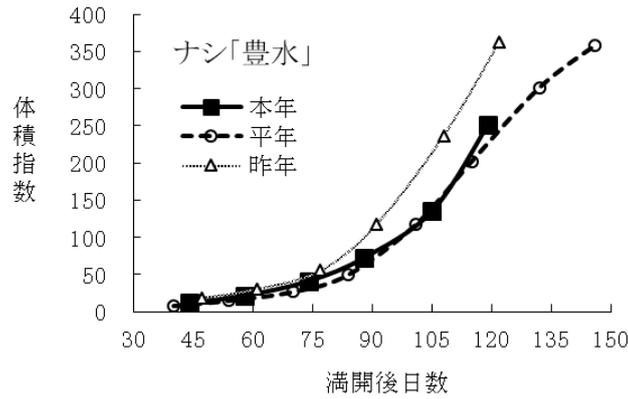


図3 ナシの果実肥大

表4 「幸水」の成熟経過

生育日数	硬度 (lbs.)			地色			糖度 (° Brix)			果皮中クロロフィル含量 (μg/cm <sup>2</sup> )		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
115	9.4	6.8	7.5	1.7	1.8	1.6	12.1	11.4	12.0	10.6	10.8	11.5
リンゴ酸含量 (mg/100ml)												
生育日数	本年	平年	昨年									
115	0.06	0.06	0.05									

注) 平年値は、1991～2020年の平均

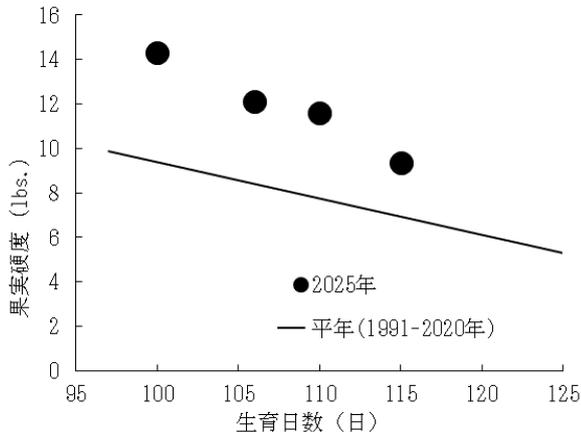


図4 「幸水」の果実硬度の推移

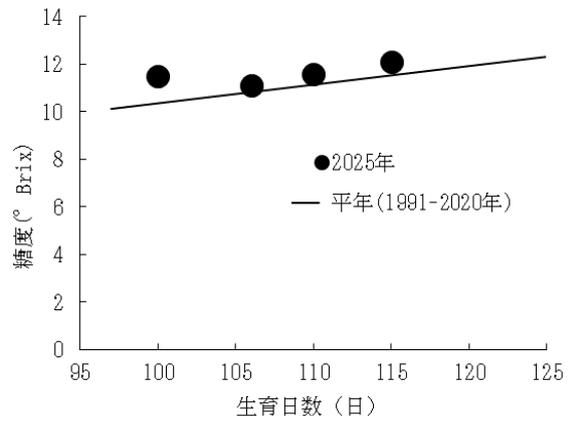


図5 「幸水」の糖度の推移

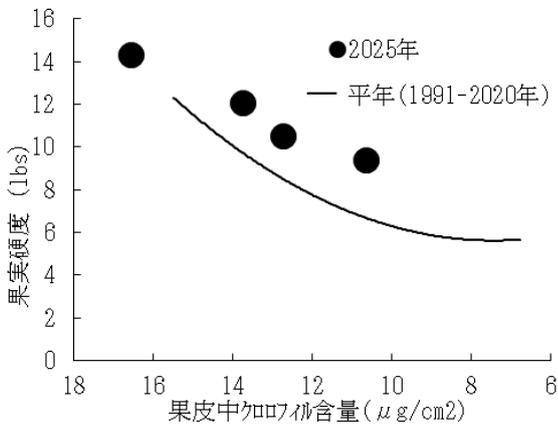


図6 「幸水」の果皮中クロロフィル含量と硬度の推移

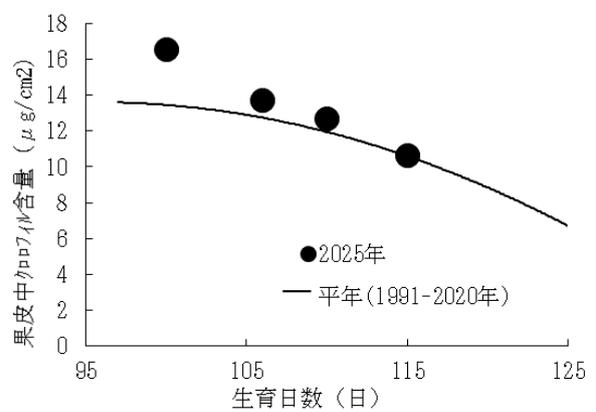


図7 「幸水」の果皮中クロロフィル含量の推移

(3) リンゴ

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が 70.2mm で平年比 97%、横径が 81.8mm で平年比 99%と平年並である。「ふじ」は縦径が 63.5mm で平年比 96%、横径が 70.0mm で平年比 96%と平年並である。満開後日数で比較すると、両品種ともに平年より小さい（図 8）。

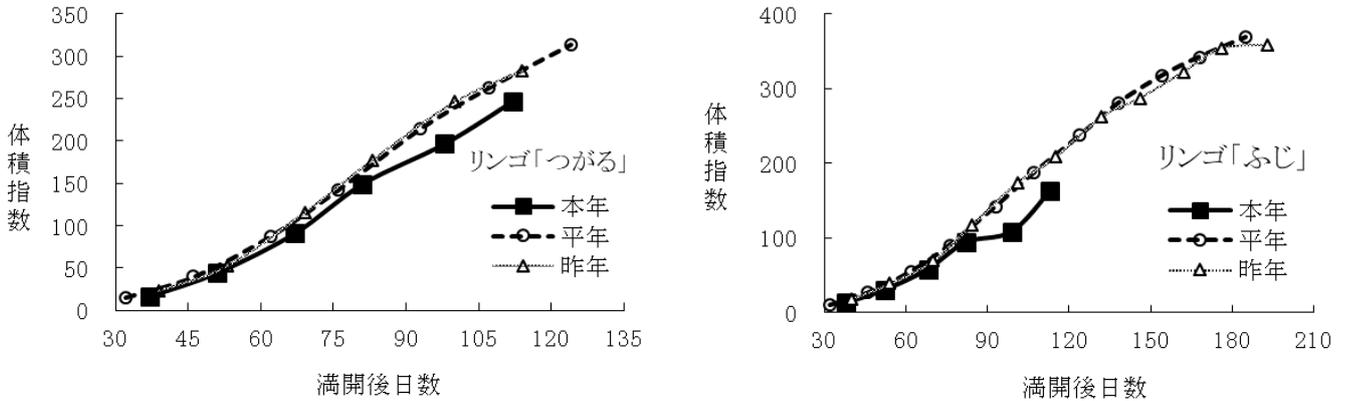


図 8 リンゴの果実肥大

イ 成熟状況

満開後 109 日（8 月 12 日）における「つがる」の果実品質は、硬度が 15.4 ポンド、デンプン指数は 2.4、糖度は 12.6° Brix、リンゴ酸は 0.35g/100ml である（図 9～12）。

満開後日数での比較では、アントシアニン含量が平年より低く、クロロフィル含量は平年より高く推移している（図 13、14）。

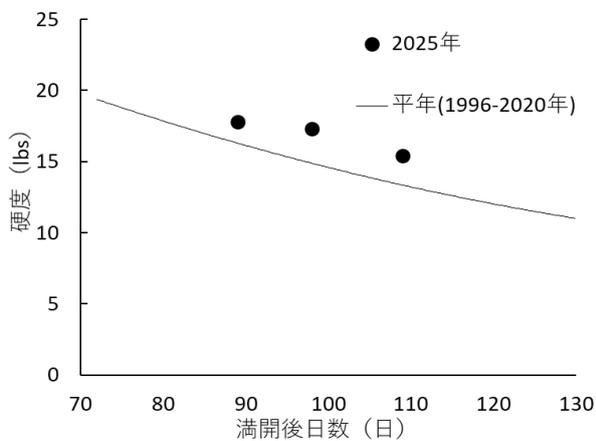


図 9 「つがる」の果実硬度の推移

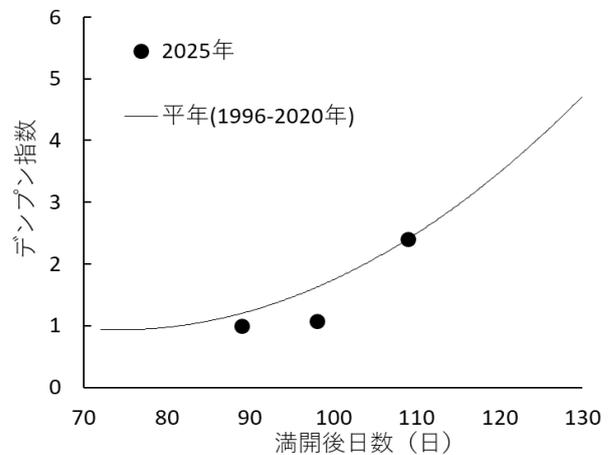


図 10 「つがる」のデンプン指数の推移

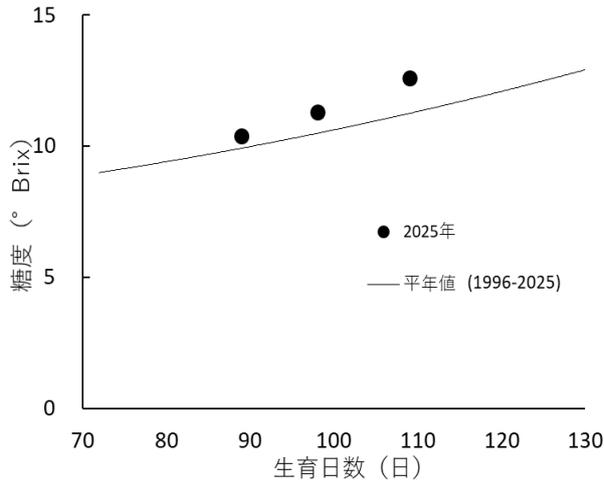


図 11 「つがる」の糖度の推移

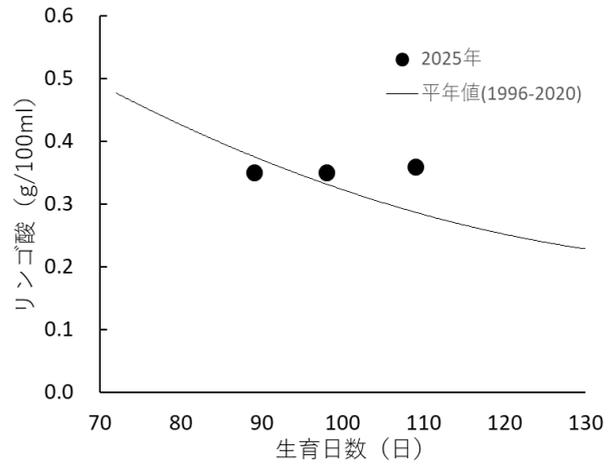


図 12 「つがる」のリンゴ酸の推移

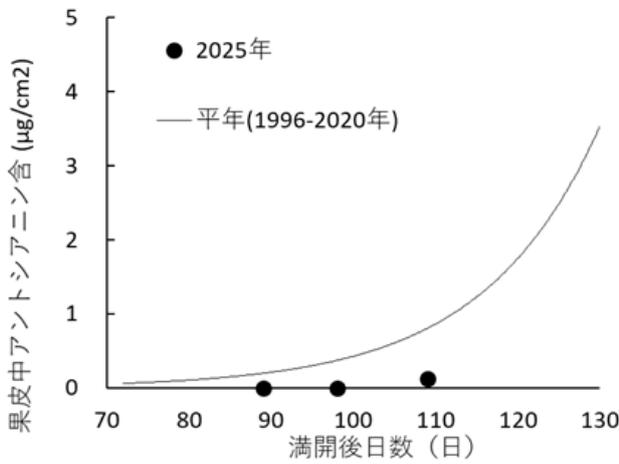


図 13 「つがる」のアントシアニン含量の推移

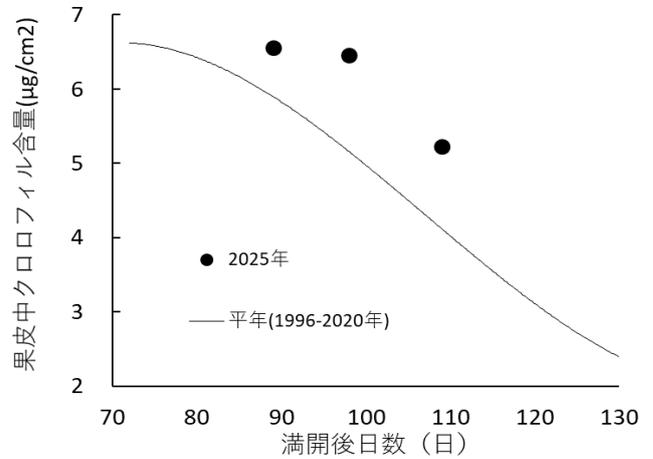


図 14 「つがる」のクロロフィル含量の推移

#### (4) ブドウ

##### ア 「巨峰」の成熟状況

8月5日の「巨峰」の成熟状況（満開58日後）は、果皮色が8.1、糖度が17.7° Brix、酒石酸含量が0.75g/100ml、糖酸比が23.7であり、満開後日数で比較すると平年より糖度が高く、酒石酸含量が低い傾向となっている（図15～18）

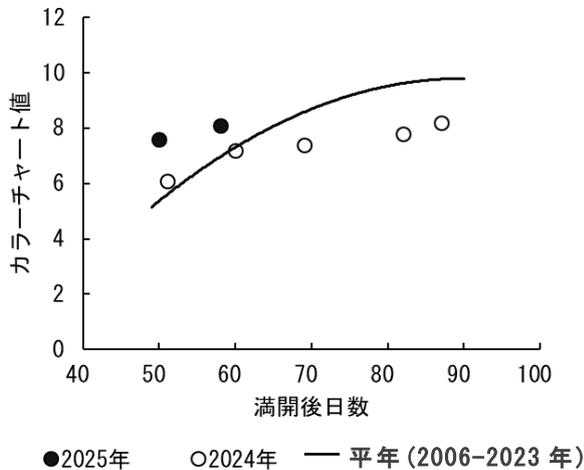


図 15 「巨峰」の果皮色の推移

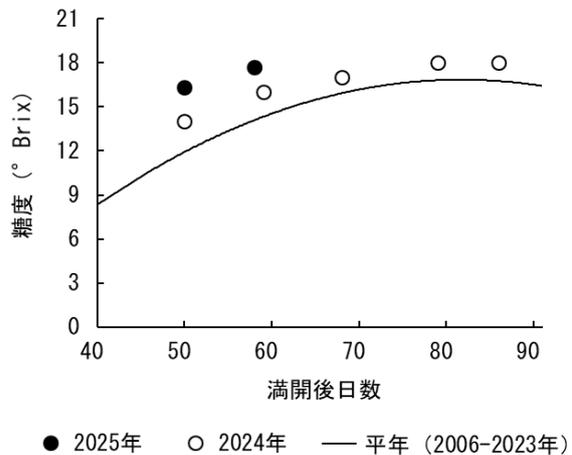


図 16 「巨峰」の糖度の推移

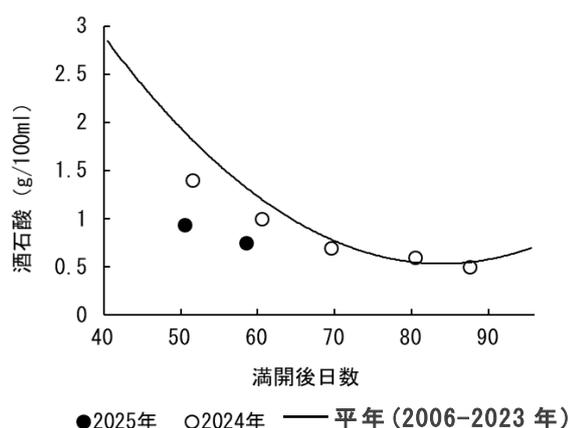


図 17 「巨峰」の酒石酸含量の推移

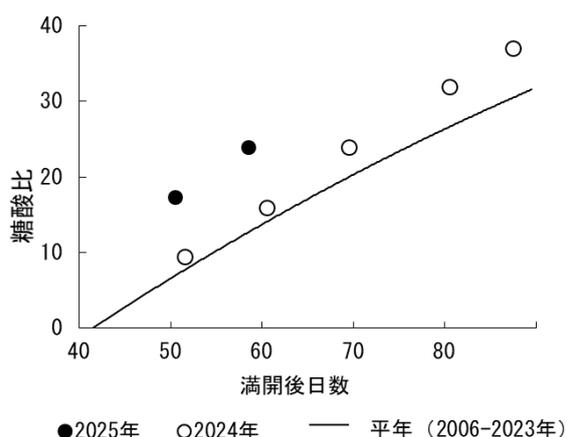


図 18 「巨峰」の糖酸比の推移

#### イ 収穫状況

「あづましずく」（短梢栽培）の収穫盛期は、8月10日で平年より8日早かった（表5）。

表5 ブドウ「あづましずく」の収穫状況

栽培方法	収穫開始日			収穫盛期			収穫終期		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
長梢栽培	8/7	8/11	7/31	8/8	8/15	7/31	8/12	8/18	8/5
短梢栽培	8/7	8/15	7/31	8/10	8/18	8/10	8/12	8/21	8/10

注) 平年値は、2004～2020年の平均

#### ウ 果実品質

「あづましずく」の果実品質は、長梢栽培及び短梢栽培で糖度及び糖酸比が平年より高く、酒石酸含量が平年より低かった（表6）。

表6 「あづましずく」の果実品質

栽培方法	果皮色 (カラーチャート値)			糖度 (° Brix)			酒石酸 (g/100ml)			糖酸比		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
長梢栽培	9.7	9.2	8.8	19.3	18.0	18.6	0.42	0.50	0.46	46.0	36.8	40.0
短梢栽培	9.7	8.9	8.9	18.6	17.9	18.7	0.45	0.52	0.43	41.5	35.5	43.2

注) 平年は2004年～2020年の平均値

### 4 栽培上の留意点

#### (1) 共通

##### ア かん水

夏期にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度であるので、1回のかん水は25～30mm程度(10a当たり25～30t)を目安とし、5～7日間隔で実施する。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くする。

##### イ 草刈り

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行う(地表面からの蒸発散量は、草生園において刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされる)。

##### ウ マルチ

刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努める。

(2) モモ

ア 晩生種の収穫前管理

今後、晩生種については適期に修正摘果を実施するとともに、夏季せん定や支柱立て、枝吊り、反射シートの設置など収穫前の管理を計画的に実施する。有袋栽培では適期に除袋するとともに、着色管理作業を計画的に行う。

また、乾燥後の降雨に伴い、果実の成熟が早まる傾向が認められるため、収穫が遅れないように注意する。

(3) ナシ

ア 「幸水」の収穫

「幸水」の品種特性として、収穫盛期の降雨などにより急激に土壌水分が増加した後は果皮クロロフィルや果肉硬度の低下が急激に進むので、収穫が遅れないように注意する。

収穫基準は、全農福島作成「幸水」用カラーチャートの 1.5～2 を目安にし、適期収穫に努める。

なお、収穫時の果実温度が高いと果肉軟化が促進され芯腐れ果の発生につながりやすいので、気温の低いうちに収穫し、収穫後は涼しい場所に保管する。

(4) リンゴ

ア 早生種の収穫前管理

気温の高い日が続いていることから、日焼け果の発生が確認されており、葉摘みは日焼け果の発生状態を確認しながら数回に分けて行う。

イ 早生種の収穫

今後、気温が高温で推移する場合、果肉の軟化が懸念されるため、気象の推移に注意しながら着色や果肉硬度に注意して適期収穫を心がける。

ウ 落果防止剤散布

「つがる」の落果防止剤としてストッポール液剤を用いる場合には、収穫開始予定日など農薬使用基準を遵守して散布する。

エ 修正摘果

中晩生品種は、果実の大きさ、果形、サビ、日焼けの有無等、果実をよく確認して修正摘果を行う。

(5) ブドウ

ア 収穫適期の把握

収穫時期は品種、地域、樹勢、房型や着房量によって異なってくるので、果皮色や食味（特に糖酸比）、香り等について総合的に判断し、適期収穫を心がける。

イ 収穫時の注意点

a 雨天時やその直後の果実は糖度が低く、日持ちも悪い。収穫前の2～3日が晴天で、当日も晴れている日に収穫するのが望ましい。

b 収穫は、日持ちを向上させる目的で果実温度の低い早朝などに行う。

c 主枝の先端や日当たりが良く登熟が進んだ枝の果実は成熟が早いので、優先して収穫する。

d 果粉を落とさないために、収穫果実は穂軸を持ち、果粒には直接触らないようにする。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病害

ア リンゴ褐斑病

本病の発病が増加する時期であるため注意が必要である。本病の発生が多い場合は、中・晩生種を対象にユニックス顆粒水和剤 47 2,000 倍を使用する。なお、薬剤の収穫前日数に十分注意する。

イ ナシ黒星病

本病の発生が多い園地では、「幸水」収穫後にトリフミン水和剤 3,000 倍、またはフルーツセイバー 3,000 倍を使用する。薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統薬剤の使用回数に十分注意する。なお、発生が少ない園地では今回の防除を省略してもよい（参考：令和 4 年度普及に移しうる成果（<http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/566356.pdf>））。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

今後の気温が 2℃ 高く推移した場合、モモハモグリガの第 5 世代成虫の誘殺盛期は、8 月 6 半旬頃と予測され、第 6 世代の防除適期は 8 月 6 半旬頃と推定される（表 7）。

本種の発生には放任園や無防除のハナモモ園が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣に存在する園地では、今後も発生に注意する。

イ ナシヒメシンクイ

今後の気温が 2℃ 高く推移した場合、ナシヒメシンクイ第 4 世代成虫の誘殺盛期は、8 月 6 半旬頃であると予測され、第 5 世代幼虫の防除適期は、9 月 1 半旬頃と推定される（表 7）。

本種はモモ等の核果類の新梢伸長が停止するとナシ果実への寄生が増加する。例年、ナシでの果実被害が多い地域では、近隣のモモ等における防除も徹底する。なお、薬剤による防除を実施する場合には、使用基準を遵守する。

ウ カイガラムシ類

気温が 2℃ 高く推移した場合、ナシマルカイガラムシ第 3 世代のふ化開始は、9 月 1 半旬頃と予測され、ふ化盛期は 9 月 4 半旬頃と推定される（表 7）。

例年、クワコナカイガラムシ第 2 世代幼虫の防除適期は 8 月下旬～9 月上旬頃である。カメムシ類対策等で合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド剤等を多く使用している園地では、天敵類の減少によるカイガラムシ類の増加に注意する。

エ カメムシ類

病害虫防除所のフェロモントラップ調査におけるカメムシ類の誘殺数は、平年より多い傾向にある。飛び込みをよく観察し、多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行う。

表 7 果樹研究所における防除時期の推定（令和 7 年 8 月 14 日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ		ナシマルカイガラムシ	
	第 5 世代 誘殺盛期	第 6 世代 防除適期	第 4 世代 誘殺盛期	第 5 世代 防除適期	第 3 世代 ふ化開始	第 3 世代 ふ化盛期
2℃ 高い	8 月 26 日	8 月 30 日	8 月 29 日	9 月 4 日	9 月 5 日	9 月 17 日
平年並	8 月 28 日	9 月 1 日	9 月 1 日	9 月 8 日	9 月 9 日	9 月 25 日
2℃ 低い	8 月 29 日	9 月 2 日	9 月 3 日	9 月 12 日	9 月 13 日	10 月 7 日
起算日：モモハモグリガ第 4 世代誘殺盛期			8 月 8 日（予測値）（演算方法は三角法）			
			ナシヒメシンクイ第 3 世代誘殺盛期 8 月 5 日（予測値）（演算方法は三角法）			
			ナシマルカイガラムシ 3 月 1 日（演算方法は三角法）			